

症例 31

●50歳 男

左前胸部痛、呼吸困難のため救急受診。急性前壁中隔梗塞の診断でCCUに収容。

この心電図は第1病日のものである。

II



65

(連続記録)

- 1) このリズムは何か。
- 2) 治療は。

心電図診断

心房粗動(2対1ブロック)→心房細動、心室性期外収縮

上段前半部 心拍数約150/分。心房波(↓)は約300/分→F波。

F波2個にQRS波1個。

上段中央部から RR間隔不規則になり、基線のゆれも小さく不規則になる→f波。

上段最後の心拍 QRS幅広く、波形が他と異なる
→心室性期外収縮



解 説

急性心筋梗塞で心房粗動を見る場合は、一般に梗塞巣が大きいか、心房梗塞を伴っていることが多い。しばしば頻拍になるため、心筋酸素消費量を高め、心筋梗塞の経過に悪影響を与える。

したがってジギタリス療法により心拍数をおとすか、電気ショック療法により洞調律に復帰させることを考えなければならない。この症例はジギラノーゲンC 0.4mgの静注により前頁の図のように心房細動に移行し、心拍数を減少させることができた。